

びわこの 考湖学

52

芦浦観音寺(草津市芦浦町)は東南から琵琶湖に流れ込む堺川の南に位置し、近世以前の湖岸線からほど近い場所です。天台宗の別格寺院で、聖徳太子の開基、秦河勝の創建伝承をもつ古刹です。重要文化財の阿弥陀如来立像をはじめ、同じく重要文化財の建造物である書院や阿弥陀堂など数多くの国指定、県指定文化財を有しています。寺域は芦浦観音寺跡として国の史跡に指定されています。

草津市には11カ所の白鳳期寺院跡が所在していますが、そのほとんどが芦浦観音寺の所在する草津市北部地域に集中しています。

創建当時の所在地は明らかになっていませんが、正面の長屋門付近に築かれた石垣に穴の空いた石があります。これは古代寺院の礎石を石垣に転用したものです。境内からは白鳳時代の瓦も出土しており、これらのことから当時から現在と同じ場所に観音寺があったと考えることができるでしょう。

9)年(寛永11(1634)観音寺には永禄2(1555)

年ごろに描かれたと考えられる「芦浦観音寺境内絵図」が伝わっています。この絵図からは当時の芦浦観音寺が堀と石垣、土塁で囲まれていたことが見て取れます。敷地を囲む堀は北西に舟溜りを設け、堺川を通じて琵琶湖につながっていた様子が描かれています。正面には長屋門を備え、まるで中世城館のような外観をもつ寺院です。

現在でも観音寺は幅3・6(8・2)呎の堀と最高2呎の土塁に囲まれており、正面付近には左右に伸びる立派な石垣と長屋門があります。表門付近の堀幅は広く、当時の隆盛を今に伝えています。また、現在は耕作地になっていますが、西側にも寺域は広がっており、当時は堀であったと考えられる水路が住宅地の横に今もみることができま

す。観音寺は、一見城郭と見まがうほど重厚な門構えの敷地の中に、阿弥陀堂や書院などの宗教的な建物と政所などの実務的な建物とが立ち並んでいます。

先述の絵図によれば、当時

芦浦観音寺

の政所は入り口正面に位置しており、隣接する仏間を覆うように建物を建て、仏間の背後に台所を設けるなど、実務的な空間を構成しています。一方で、宗教的な建物の象徴であるはずの仏間は覆い屋の中に収められ、書院や阿弥陀堂が敷地の隅にあるなど、当時の観音寺にとって宗教空間の占める割合は非常に低く、当時は実務を行う場所のほうがかつて重要であったことがうかがえます。これらの区画は堀で区切られ、まるで城館のような構造を持っています。

中、近世の芦浦観音寺は、応永年間(1394~1428年)に天台寺院として中興し、その後、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康に重用され、天正年間(1573~1592年)から江戸時代初期まで琵琶湖の湖上交通を管掌する船奉行を務めていました。さらに、江戸時代初期には湖南方面の天領代官として近江支配の実務官僚的な地位にありました。この絵図に描かれた境内の様子から、行政的機能を有した観音寺の個性がうかがうことができます。

音寺を湖上交通の管掌者として任命したのでしょうか。課題は残ります。現在の芦浦観音寺は、ひっそりとした佇まいを見せていますが、その中にも古代寺院の存在をうかがわせる礎石や、中近世の最盛期の威容を今に伝える石垣などの景観が残されています。芦浦観音寺へはJR琵琶湖線草津駅より守山駅行きのバスに乗車、芦浦バス停から徒歩約5分。拝観者駐車場あり。境内の拝観には事前の予約が必要です。

(滋賀県文化財保護協会 伊藤愛)



④古代寺院の礎石を転用した長屋門の横の石垣(左下) ⑤湖上交通を統制した時代の威容を伝える堀と石垣



堀と石垣で実務空間を守る